

阪神大水害の写真記録

衣川 太一

はじめに

1938(昭和 13)年 7 月 3 日から 5 日にかけて、台風に刺激された梅雨前線は集中豪雨をもたらし、5 日になって阪神間では大規模な河川の氾濫や六甲山の斜面崩壊、土石流などが発生した。この災害は「阪神大水害」と呼ばれ、当時の各区の調査によると、死者 616 名負傷者 984 名を生じ、全市の 48 パーセントに及ぶ戸数が流失または床上・床下浸水の被害を受けた¹⁾。当館に収蔵されている様々な種類の記録から、神戸市の広範な地域を襲い街の様子を一変させた水害の猛威とその後の復旧作業の様子を知ることができる。

Ⅰ 記録写真

神戸という当時人口 96 万人を抱える大都市の広範囲にわたり被害が発生したため、カメラを持った多くの人たちによって記録された様々な写真が残されている。1936 年秋から 1941 年春までの阪神間を舞台にした谷崎潤一郎の小説『細雪』にも阪神大水害が克明に描かれ、カメラを持って被害の様子を撮影する人物が登場する。水害関係写真をまとめたアルバム「昭和 13 年 阪神及び裏六甲災害」²⁾(図 1)は、当時兵庫県庁の土木技手を務めていた人物が個人的に作成したものともみられ、山間部や上流部の被害が多く収められている。一方、図 2 の小曾根家寄贈のアルバムの中には、旅行やレジャーといった家族の記録に交じり、土砂と瓦礫に埋もれた被災直後の元町商店街の光景や、住吉川・宇治川筋の様子を撮影した 31 枚の水害記録写真が貼付されている³⁾。

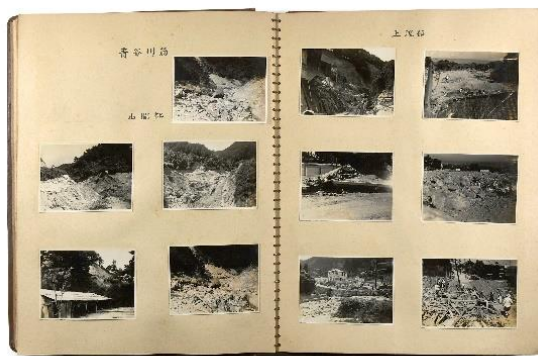


図 1 「昭和 13 年 阪神及び裏六甲災害」

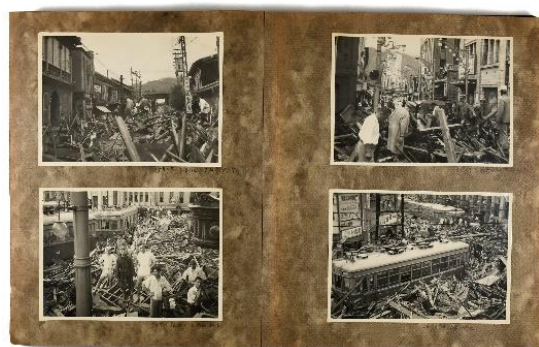


図 2 「小曾根喜一郎コレクション⑥」

図 3 の来歴不明のアルバムは本体に題名や製作者等の情報が記されておらず、仮に「昭和 13 年(1938 年)阪神大水害」(以下「昭和 13 年大水害」)と名付けられている⁴⁾。皮装幀のしつかりとした造りで写真も 117 点と豊富に収められ、個々の写真には紙片に活字で印刷された説明文まで添えられている。これによると全ての写真は 7 月 5 日から 16 日の間に撮影されている。当館では全く同じ外装・内容の 2 冊を所蔵しており、組織的に作成・頒布されたものと推察されるが、アルバムによって画像が左右逆になった写真(裏焼き)が貼付されていたり、トリミング(切り取り)が

異なるものが含まれていたり(図4)することから、一括してプリントされたものではなさそうである。

水害から1年経った1939年に神戸市が発行した『神戸市水害誌附図』⁵⁾(以下『附図』)には水害とその復旧作業や慰霊祭の様子を写した358点の写真が掲載されているが、7月5日から16日の撮影とされる写真105点に限定すると、87点が『昭和13年大水害』と重複し、80%強を占める。『附図』では掲載された写真について、次のように説明している。

「災害状況の写真は、水害突発直後に之を撮影して参考と為さんが為め、市吏員有志に依嘱して、撮影せるものの中より選択せるものである」⁶⁾(同書、巻頭凡例)

『附図』1ページ目に掲載されている「御差遣の大金侍従」を写した2点の写真と同じ紙焼⁷⁾を文書館では所蔵しており、こちらには当時兵庫区の三川口町にあった山根写真館のエンボスが押されている。そのため、『附図』に収められた写真すべてが「市吏員有志」により撮影されたものではないことに注意したいが、文字通り「災害状況」を「災害突発直後」に撮影した写真にはそのようなものが多く含まれていると言えよう。そして、その時期に撮影された写真のみで構成され、『附図』と内容が大きく重複するアルバム「昭和13年大水害」も、基本的には市職員の手による撮影と思われる。

この「昭和13年大水害」と重複する写真が多数貼付されているものの、アルバムの形式や並び、写真の大きさなどが違った「阪神大水害 神戸市内の惨状」も存在する⁸⁾。こちらも2冊あって、使用されている写真の種類や順序には相互に異同が見られる。また撮影期間が7月5日から9日までとさらに短く、山根写真館の写真が複数含まれる等の点が、「昭和13年大水害」とは異なっている。

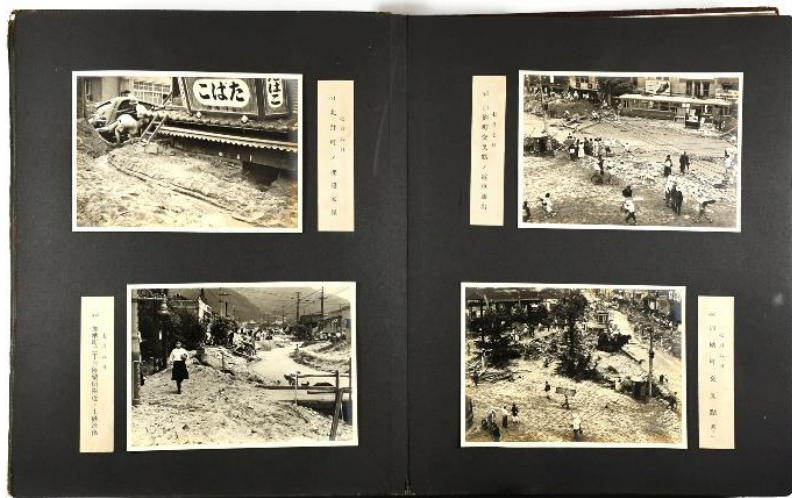


図3 「昭和13年(1938年)阪神大水害」



図4 同前

2 水害イメージの頒布

カメラを持たない人はどう映像と関係していたのだろうか。図5に示した1938年7月8日付の神戸又新日報の記事では⁹⁾、水害からの復興の様子を伝えるとともに、「売れるぞ水害写真」として、被災状況を撮影したブロマイド写真が人気を博している状況を記している。元町1・2丁目付近で販売されていると伝える記事から、交通網が寸断された被災直後に市の中心部でこのような

記録を買い求めたのは、ほかならぬ神戸市民であったかもしれない。当館でもこれら販売や配布を目的としたとみられる、多量に焼かれた同じ写真や、上述のように写真館の名が入れられた写真を所蔵している¹⁰⁾。(図 6, 7)



図 5 1938 年 7 月 8 日付『神戸又新日報』



図 6 「阪神大水害関連写真」



図 7 同前

紙焼写真だけではなく、絵葉書も多量に作成販売された。当館では過去に寄贈を受けたり収集したりした阪神大水害関連の絵葉書を約 300 枚所蔵しており、販売当時に絵葉書が入れられていたとみられる封筒が付属したものも存在する。また、図 8「阪神沿線魚崎附近水害絵はがき」¹¹⁾や図 9「阪神沿線住吉川水害絵はがき」¹²⁾のように地域を限定したものも見られ、その地区の住人や縁者を対象として頒布されたことが読み取ることができる。

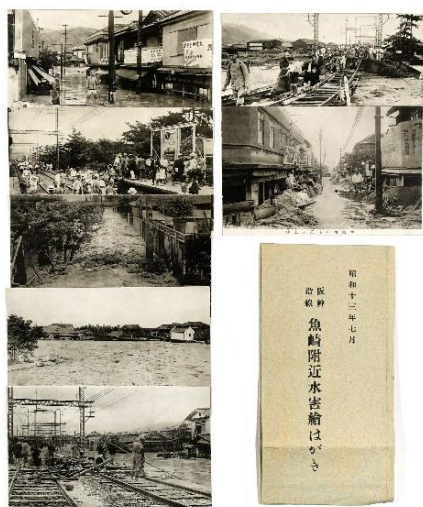


図 8 「阪神沿線魚崎附近水害絵はがき」

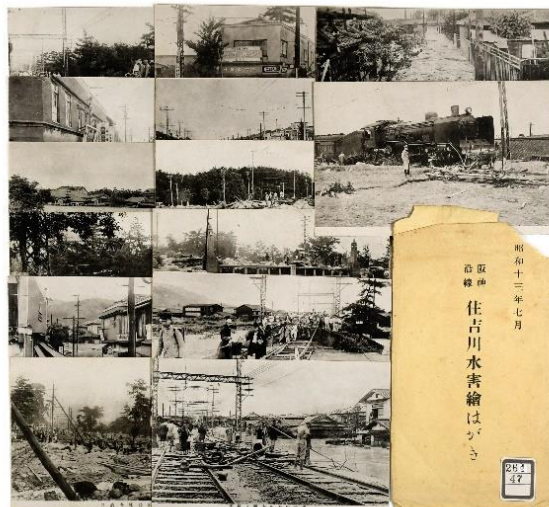


図 9 「阪神沿線住吉川水害絵はがき」

これらの絵葉書には、印刷・発行元が書かれていないもの、また封筒が欠落したセットもあるが、様々な特徴からおおよそ表1の10種に分類可能である。1セットが何枚で構成されていたのかはもはや定かではないが、残存状態からみるとおおむね8枚から16枚であったと思われる。絵葉書上に印刷された「阪神地方水害」や「神戸地方水害」などの副題から同じシリーズに属すると考えられるものの、内容の組み合わせが異なるものや、同じ画像の絵葉書が、異なるタイトルの封筒に収められている事例も存在する。

表1 水害絵葉書の分類

封筒のタイトル	発行者等	副題	絵葉書裏面の表記
昭和十三年七月 神戸附近大水害実況写真	なし	阪神地方水害	「郵便はがき / POST CARD」
昭和十三年七月五日 神戸附近大水害 特報	錦水社	神戸大水害 特報	なし
昭和十三年七月五日 神戸附近大水害の実況写真	錦水社	なし	なし
昭和十三年七月五日 神戸附近大水害の実況写真(第二報)	錦水社	なし	なし
昭和十三年七月五日 神戸附近大水害の実況写真(第三報)	錦水社	なし	なし
昭和十三年七月 神戸地方大水害実況と復興に努むる市民	なし	神戸地方水害	「郵便はがき / CARTE POSTALE」、または「郵便はがき / POST CARD」
昭和十三年七月 神戸水害実況はがき	なし	神戸地方水害	「郵便はがき / CARTE POSTALE」、または「郵便はがき / POST CARD」
神戸地方水害実況写真	「歴史写真 会大阪支社 印行」等*	なし	なし、または「郵便はがき」、または「郵便はがき」
阪神沿線魚崎附近水害絵はがき	なし	なし	郵便はがき / CARTE POSTALE(灰色)
阪神沿線住吉川水害絵はがき	なし	なし	郵便はがき / CARTE POSTALE(灰色)

*他に「官界新聞社印行」「時事写真新聞社印行」、および無記載のものが確認されている

3 増殖するイメージ

図10の3枚の絵葉書はそれぞれ別のセットに含まれていた。『昭和十三年七月 神戸地方大水害実況と復興に努むる市民』というセットに含まれる「泥濘に埋まれるトラック」¹³⁾、『神戸地方水害実況写真』の「泥濘に埋まるトラック」¹⁴⁾、そして『昭和十三年七月五日 神戸附近大水害の実

況写真 第三報』(錦水社)の「泥の中に埋れるトラック」¹⁵⁾と少しずつ違った題が付けられている。印刷具合も様々で、写っている範囲も異なるため、一見すると同じ場所で撮影された別個の写真と感じられるが、細部を比較すると、どれも同じ瞬間を撮影した同じ写真であることが分かる。

さらにこれら3枚の画像を重ね合わせてみると、それぞれの絵葉書にしか写っていない、他の絵葉書とは重ならない箇所が現れる(図11 黄色)。つまり、同じ絵葉書を使いまわしたのではなく、元々1枚の大きな写真が存在し、それを各々の絵葉書の作成者が様々にトリミング(切り取り)して使用している。



図11 図10の3枚の重ね合わせ

黒実線:「泥濁に埋まれるトラック」

青破線:「泥濁に埋まるトラック」

赤実線:「泥の中に埋れるトラック」



図10 同じ瞬間を撮影した異なる絵葉書

他の例も当館の所蔵資料から見出すことができる。図12の絵葉書は発行者不明のセット『昭和十三年七月 神戸地方大水害実況と復興に努むる市民』に含まれる「居留地の濁流(神戸地方水害)」¹⁶⁾である。先に触れたアルバム『昭和13年大水害』には「七月八日 元居留地伊藤町附近」という、より詳しいキャプションの付けられた同じ写真が貼付されている¹⁷⁾(図13)。絵葉書では鮮明ではないが、一方の紙焼き写真では奥に元町の大丸百貨店が確認できることから、現在の東遊園地の北西角付近から西に向かって撮影していることが分かる。紙焼は経年劣化しているものの画質が良く、オリジナルのネガから直接焼かれた可能性がある。

こちらも重ね合わせてみると、当時の葉書のサイズであるおおむね14cm×9cmの比率の範囲に収まるように、写真の左右を切り取ってトリミングしていることがよく理解できる(図14)。上下でわずかに重ならない部分が出ているので、このアルバムの写真とは別に焼かれたものから版を起こして絵葉書を作ったと考えられる。

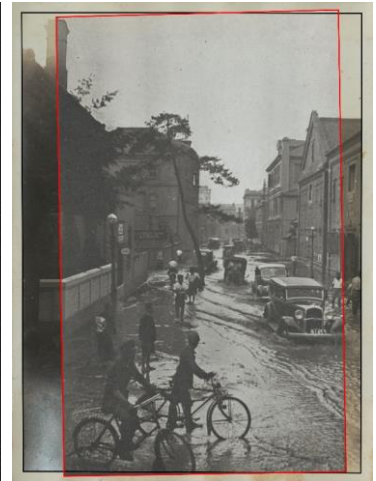


図 12 「居留地の濁流 図 13 「七月八日 元居留地伊藤町附近」 図 14 前 2 枚の重ね合わせ
(神戸地方水害)」

4 ニュースメディアとしての絵葉書

上述した大丸百貨店が写った箇所を並べて比較してみると、紙焼き写真(図 15 右側)のほうが精細で描写力が優れていることが明瞭となるが、1枚ずつ印画紙の上に手作業で焼き付けた上に現像処理が必要な写真と比べ、網版というものを使い一度に多量に印刷できる絵葉書(同左側)は、1枚当たりの単価を低く抑えることができる。当館所蔵資料に一般向けの販売物である絵葉書が多数存在するのは、郵便葉書という実用の面だけではなく価格の点からも入手しやすく、広く市中に出回っていたことが大きいのではないかと考えられる。



図 15 図 12 と 13 に写った大丸百貨店の比較

ここでは「絵葉書」と便宜的に称しているものの、当時法令¹⁸⁾により表記が必要だった「郵便はがき」の文字等、葉書であることを示す印刷が全くされていないものも存在している(「特報」「二報」「三報」等)。図 16 のように未使用のまま絵葉書用アルバムに収めて保管されたものもあり¹⁹⁾、必ずしも葉書としての役割を前提としていたものではなかったようである。またこれら水害絵葉書には、当時頻繁に使用されていた彩色が施されたものが見られず、発行のスピードや時事性が優先されたと考えられる。

絵葉書セット『昭和十三年七月五日 神戸附近大水害の実況写真 第三報』（錦水社）に含まれる「神戸元町通の濁水」²⁰⁾（図 17）は、毎日新聞社が所蔵する写真（「川からあふれ出た濁流により街は泥で埋め尽くされた」）を使用したものであることが確認できる²¹⁾。

この『第三報』には他に図 18 の「宇治川陸橋に押寄せた倒壊(マ)家屋」²²⁾（朝日新聞「山手通の橋橋（神戸市電山手線の陸橋）にせき止められて折り重なった宇治川流域の流失民家や流木」²³⁾）、および図 19「新湊川の濁流」²⁴⁾（朝日新聞「天王川の氾濫で水没した湊区下三条町」²⁵⁾）と、別々の新聞社の写真を使用した絵葉書が含まれており、特定の新聞社が直接関与して発行されたものとは考えにくい。他のセット内でも新聞社所蔵の写真を使用した絵葉書が見いだされ、同じく絵葉書が多量に作成された 1923 年の関東大震災と比して、ニュース映画や週刊誌・グラフ雑誌等の視覚メディアが発達した昭和初期²⁶⁾においても、依然として絵葉書は「ニュース画像の頒布流通システム」という側面を担っていたことが読み取れる。

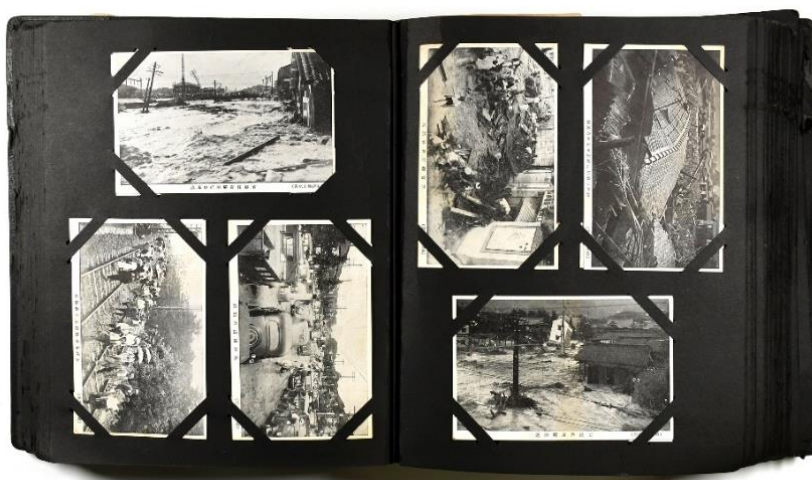


図 16 「小曾根喜一郎コレクション③絵葉書アルバム」

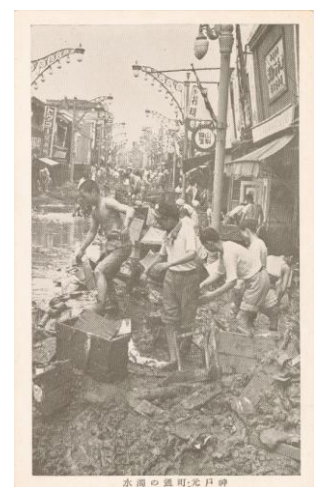


図 17 「神戸元町通の濁水」



図 18 「宇治川陸橋に押寄せた倒壊(マ)家屋」



図 19 「新湊川の濁流」

5 伝えるイメージ

撮影者が異なるにもかかわらず同じ被写体を収めたものも多く見いだされる。なかでも加納町交差点で土砂に埋もれ、流れてきた木材で前面が破壊された市電車両の姿は、当館所蔵の 3 種の紙焼写真と 1 種の絵葉書に認められ、衝撃的な被害を伝える象徴的な被写体であったことが分かる（図 20 絵葉書「加納町付近の災害」²⁷⁾、図 21「加納町交差点の電車流出」²⁸⁾、図 22「（無題）阪神大水害関連写真」²⁹⁾、図 23「加納町 3 丁目交叉点附近」³⁰⁾）。



図 20 「加納町附近の災害」



図 21 「加納町交差点の電車流出」



図 22 「(無題) 阪神大水害関連写真」



図 23 「加納町 3 丁目交叉点附近」

絵葉書「阪神三宮駅附近の出水」³¹⁾(図 24)とアルバム『昭和 13 年大水害』の「三宮そごう前附近 その 1」³²⁾(図 25)も写された時期やカメラの向きが異なるが、双方とも省線(現・JR)三ノ宮駅の高架からそごう百貨店(現・神戸阪急)と溢れた土砂を記録している。現在でも同じ場所に立つと同じ空間のひろがりを見ることができる、神戸市民にとって馴染み深いビューポイントから撮影することにより、災害による日常の変化を捉えている。



図 24 「阪神三宮駅附近の出水」



図 25 「三宮そごう前附近 その 1」

先に紹介した元町商店街を写したのものも数多く、撮影場所が異なるにもかかわらず、すずらん灯が印象に残る縦長の構図が取られているものが多い(図 26 絵葉書「元町通の浸水」³³⁾、図 27 同「元町通りの浸水」³⁴⁾、図 28 アルバム『昭和 13 年大水害』「減水後の元町通 6 丁目」³⁵⁾)。

現在ではアーケードが設置されて雰囲気は変わったものの、両側の商店と屋根より高いすずらん灯・先に伸びる元町通りという、当時の人々が元町商店街に抱いていたイメージの一端がこの縦長の構図の多用から感じ取ることができる。

残された写真や絵葉書などからは、水害の直接的な猛威を記録したものだけではなく、市民によく知られた場所の様子を伝えるものも被写体として多く選ばれていたことを読み取ることができる。なお、当時神戸で一番の繁華街であった新開地は頻繁に絵葉書の素材となっていたが、被害が少なかったためか、水害に関する絵葉書は確認されていない。



図 26 「元町通の浸水」



図 27 「元町通りの浸水」



図 28 「減水後の元町通 6 丁目」

おわりに

本稿で取り上げたのは、当館が所蔵する阪神大水害関連の写真記録や絵葉書資料の一部に過ぎない。今後はこれらをデジタル化し、閲覧・利用しやすいデジタル画像として公開を進める予定である。神戸が乗り越えてきた災害の歴史を視覚的かつ多面的に提供することは、防災意識涵養の一助となるだろう。さらに、それを記録した人や受け取った人々の視点が構成する「災害記録の文化史」という一面にも光が当たることも期待したい。

注

- 1) 神戸市役所編纂・発行『神戸市水害誌』1939 年、p245-246
- 2) 「昭和 13 年 阪神及び裏六甲災害」小林嘉道氏寄贈、1938 年(2B-34-1)
- 3) 「小曾根喜一郎コレクション⑥」小曾根実氏寄贈、1938 年頃(2B-12-6)
- 4) 「昭和 13 年(1938 年)阪神大水害」1938 年頃(2A-1-3, 4)
- 5) 神戸市役所編纂・発行『神戸市水害誌附図』1939 年
- 6) 同上、巻頭凡例
- 7) 「阪神大水害関連写真」1938 年(2A-2-16-16, 17, 18, 19)
- 8) 「阪神大水害 神戸市内の惨状」1938 年頃(2A-1-1 および 2A-1-2)
- 9) 1938 年 7 月 8 日付『神戸又新日報』
- 10) 「阪神大水害関連写真」1938 年(2A-2-16-8, 9, 10)
- 11) 「昭和十三年七月 阪神沿線魚崎附近水害絵はがき」1938 年(2D-148)

- 12) 「昭和十三年七月 阪神沿線住吉川水害絵はがき」1938 年(2D-47)
- 13) 「泥濘に埋まれるトラック」『昭和十三年七月 神戸地方大水害実況と復興に努むる市民』1938 年(2D-236-12)
- 14) 「泥濘に埋まるトラック」『神戸地方水害実況写真』1938 年(2D-364-1)
- 15) 「泥の中に埋れるトラック」『昭和十三年七月五日 神戸附近大水害の実況写真 第三報』1938 年(2D-262-12)
- 16) 「居留地の濁流(神戸地方水害)」『昭和十三年七月 神戸地方大水害実況と復興に努むる市民』1938 年(2D-236-4)
- 17) 「元居留地伊藤町附近」『昭和 13 年(1938 年)阪神大水害』1938 年頃(2A-1-3-49)
- 18) 逓信省令第二十五號第二十七条(1938/4/1)表面ノ上部又ハ左側部ノ中央ニ「郵便はがき」又ハ之ニ相当スル文字ヲ明瞭ニ記載スルコト
- 19) 「小曽根喜一郎コレクション③絵葉書アルバム」小曽根実氏寄贈、1938 年頃(2B-12-3)
- 20) 「神戸元町通の濁水」『昭和十三年七月五日 神戸附近大水害の実況写真 第三報』1938 年(2D-262-11)
- 21) 毎日フォトバンク「災害(水害)阪神大水害 川からあふれ出た濁流により街は泥で埋め尽くされた」(写真 ID:P20100826dd1dd1phj168000) 22) 「宇治川陸橋に押寄せた倒壊家屋」『昭和十三年七月五日 神戸附近大水害の実況写真 第三報』1938 年(2D-262-15)
- 23) 「山手通の橘橋(神戸市電山手線の陸橋)にせき止められて折り重なった宇治川流域の流失民家や流木」、朝日新聞デジタル 写真特集 阪神大水害 80 年【1】水没した神戸市街(http://www.asahi.com/gallery/hanshin_daisuigai1938/vol1/20151107P0631AREG.html)
- 24) 「新湊川の濁流」『昭和十三年七月五日 神戸附近大水害の実況写真 第三報』1938 年(2D-262-13)
- 25) 「天王川の氾濫で水没した湊区下三条町」朝日新聞デジタル、同上(http://www.asahi.com/gallery/hanshin_daisuigai1938/vol1/20151107P0645AREG.html)
- 26) 田邊幹「メディアとしての絵葉書」新潟県立歴史博物館研究紀要 第 3 号 73-83(2002), P81
- 27) 「加納町付近の災害(神戸地方水害)」『〈神戸地方水害〉シリーズ』1938 年(2D-366-1)
- 28) 「昭和 13 年(1938 年)阪神大水害」1938 年(2A-1-3)
- 29) 「阪神大水害関連写真」1938 年(2A-2-16-111)
- 30) 「昭和 13 年 7 月 5 日 大水害写真帳」1938 年(2A-1-29-48)
- 31) 「阪神三宮駅附近の出水」『〈昭和 13 年大水害〉シリーズ』1938 年(2D-234-7)
- 32) 「7 月 8 日 三宮そごう前附近 その 1」『昭和 13 年(1938 年)阪神大水害』1938 年頃(2A-1-3-47)
- 33) 「元町通の浸水(神戸地方水害)」『昭和十三年七月 神戸地方大水害実況と復興に努むる市民』1938 年(2D-236-6)
- 34) 「元町通りの浸水(神戸地方水害)」『〈神戸地方水害〉シリーズ』1938 年(2D-65-6)
- 35) 「減水後の元町通 6 丁目」『昭和 13 年(1938 年)阪神大水害』1938 年頃(2A-1-3-68)